

## 論文審査の結果の要旨

氏名：松野 順 敬

専攻分野の名称：博士（医学）

論文題名：肝切除の皮膚縫合に関する無作為化比較試験

審査委員：（主査） 教授 副島 一 孝

（副査） 教授 櫻井 裕 幸      教授 岡田 真 広

教授 多田 敬一郎

開腹肝切除術は準清潔手術であり、創部合併症の発症率が高いが、創部縫合法の標準術式は確立していない。また、肝切除術は再切除手術例の割合が高いことも特徴であるが、再切開創の縫合法に注目して検討した報告は無い。

本研究は、2015年から2018年に開腹肝切除術を施行した症例を対象として、初回手術時および再切除時に皮下埋没縫合を加えた場合とスキンステープラーによる皮膚縫合のみの場合の創部合併症発症率について比較検討した無作為化比較試験（RCT randomized controlled trial）である。研究は日本大学医学部臨床研究倫理委員会の承認を得て、大学病院医療情報ネットワーク（UMIN）に登録し、患者に書面で同意を得て行われた。

皮下埋没縫合群に対しては間隔15mmで真皮を縫合し、対照群はスキンステープラーを用いて10mm間隔で皮膚縫合のみを行った。皮下脂肪層の浅筋膜は全例で縫合を行った。創のドレッシングは被覆材を使用せず、全例でガーゼ保護のみを行った。

研究期間全体で総計581例が登録され、除外症例を除いた564例（皮下埋没縫合281例、スキンステープラー283例）を対象として統計解析を行った結果、肝切除術施行症例全体については主要評価項目の創部合併症発症率、副次評価項目の切開創SSI発症率、術後在院日数、総医療費のいずれも両群間に有意差を認めなかった。しかしながら、再切除手術例を対象とした解析では皮下埋没縫合を行った場合の方が再切開創の創部合併症発症率の有意な低下が認められた。

本研究は、開腹肝再切除症例の閉創法として皮下埋没縫合の有用性を初めて示唆した点で新規性があり本学の学位授与にふさわしい内容といえる。

よって本論文は、博士（医学）の学位を授与されるのに値するものと認める。

以 上

令和 3 年 2 月 17 日